

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市本庄小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

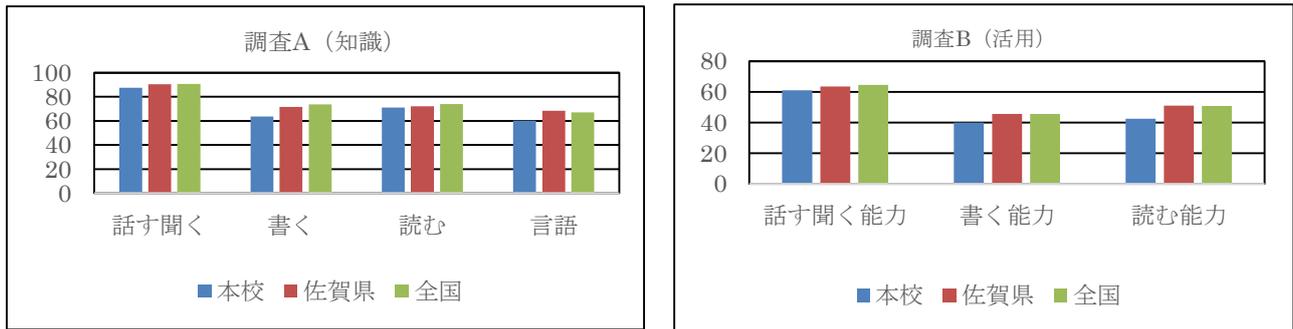
全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国正答率との比較



各領域での平均が全国、佐賀県平均を下回った。分布の割合を見ると「分布が特に上位と中位、下位の児童の差が大きい」ことがわかる。また、「選択式と比較して記述式の問題の正答率が低い」ことも要因のひとつであると思われる。

(2) 成果と課題

話す・聞く

- ・図書館への行き方の説明として適切なものを選択する問題では、複数回答のところを一つしか回答していない誤答が多く見られた。問題文に示されている解答条件を正確に読み取る力をつける必要がある。

書く

- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題では、無回答率が10.2%であった。しかし、そのほかの記述式の問題では、無回答率は2%前後であり、子供が何とか記述をしようとしていることが分かる。日々の書く習慣づけの効果と見ることができる。話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題や目的や意図に応じて内容の中心を明確にして詳しく書く問題では、書いてはいるものの正答の条件を満たしておらず誤答となるものが多かったので、問題の条件を落とさず読む注意力をつける必要がある。

読む

- ・目的に応じて文章の内容を的確に押さえて自分の考えを明確にしながら問題では、11%前後が無回答であった。難解な問題に根気よく自分で解決しようとする意欲を高めるとともに、短時間に要旨を読み取る力をつける必要がある。

言語事項

- ・漢字を文の中で正しく使う問題が県平均を下回った。文中で漢字を使う課題を出すなど宿題の在り方を工夫したり、辞書を活用する学習を取り入れたりして、様々な言葉を使える語彙力をつける必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 学校独自の「音読集」「言葉の宝箱」を全児童に配布し、音読の力、暗誦の力、語彙力を育成していきます。
- 朝のパワーアップタイムでは、基礎的読解力の育成に焦点を当てた課題に取り組みます。文と文の関係性を読み解く力の習得を目指します。
- 自分の考えをノートに書き表すとき、一定の条件（キーワードを入れる、文字数等）を提示して取り組ませ、より分かりやすく考えをまとめる力の習得をめざします。

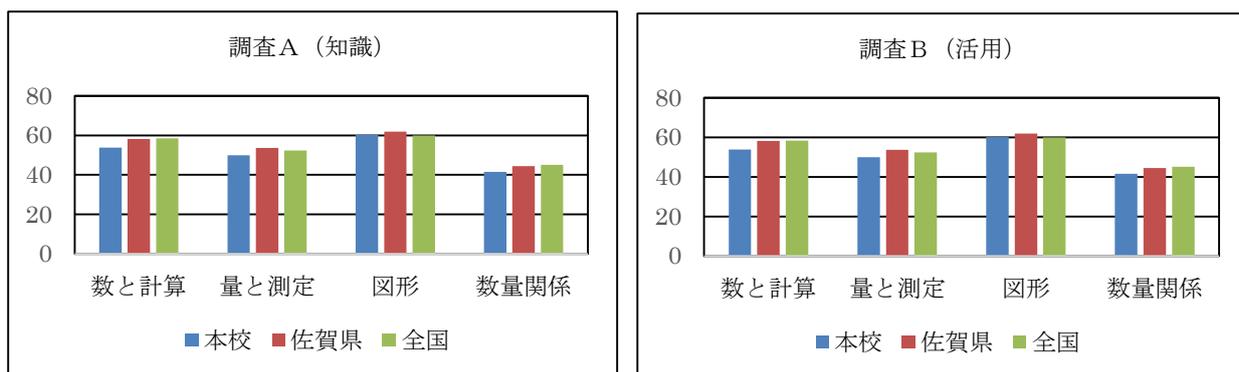
【ご家庭では】

- まずは音読が基本です。音読を毎日聞いてあげましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。

2 算数

(1) 結果

全国正答率との比較



各領域での平均が全国、佐賀県平均と同等、あるいは下回った。得点分布の割合を見ると、上位の児童が少ないことがわかる。また、「選択式と比較して記述式の問題の正答率が低い」ことも要因のひとつであると思われる。

(2) 成果と課題

数と計算

・1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表す問題では、全国平均とほぼ同等であった。小数の除法の意味についての理解の問題では、複数回答のところを一つしか回答していない誤答が多く見られた。

量と測定

・混み具合の比べ方に関する問題は、ほぼ全国平均とほぼ同等であった。単位量あたりの数の大きさの違いの意味は理解できていると見ることができる。混み具合の式の意味に関する問題では、式の意味が理解できていない誤答が見られた。

図形

・円周率の意味について考える問題、条件に合う図形を見出す問題では、全国平均を上回り、他の問題もほぼ全国平均と同じだった。

数量関係

・示された情報から条件に合う時間を求める問題は、全国平均・県平均を上回っていた。メモの情報とグラフを関連づけ解釈する問題では、条件を満たしていない誤答が見られた。複数の情報を解釈する力をつける必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業で定期的に基礎・基本の四則計算に取り組み、計算力の確実な習得をめざします。
- 授業では、自分の考えと友達のことを比較して、違いを話し合い、よりよい問題の解決方法を考える活動を取り入れ、みんなで理解を深める学習方法を実践します。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

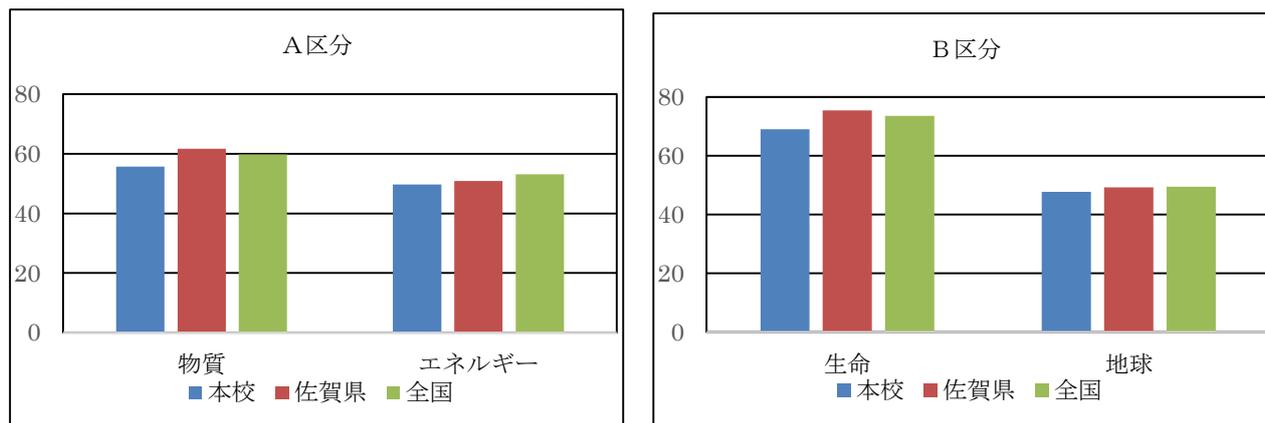
【ご家庭では】

- お子さんが宿題に取り組んでいる様子を見ていただき、今何を学習しているのか、理解できているのか、把握してあげましょう。そしてたくさん励ましや称賛の言葉をかけてあげましょう。
- 算数好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせるのが一番。生活場面で算数を使ってみましょう。「おかし数えでかけ算」「おかし分けて割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で割合」「折り紙で分数」…身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。さらに、一日一問、簡単な計算問題を出して「できる！」という自信をもたせてあげましょう。

3 理科

(1) 結果

全国正答率との比較



A区分(物質・エネルギー)、B区分(生命・地球)ともに全国平均をわずかに下回っている。

(2) 成果と課題

A区分(物質・エネルギー)

・回路を流れる電流の大きさに関わる大問題において、実験結果を読み取り、予想の選択肢と一致させる小問題の正答率が全国平均を下回った。ろ過の知識を問う問題では、わずかな実験方法の誤りを見逃している率が高かった。無答率は低く、自分なりの考えを書こうとする意識は高い。しかし、問題から情報を正しく見だし、学習したことを踏まえて丁寧に解答していくことに正確さが不足していた。

B区分(生命・地球)

・A区分と同じく、無答率は低かったが、生物の関節に関する正答率が全国平均を下回った。筋肉の弛緩や収縮への理解に課題がある。また、流水についての問題において、A区分の回路の問題同様、図示された結果を基に、予想の選択肢と一致させることが十分ではなかった。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 児童の「知りたい。調べたい。」という意欲を喚起する学習問題を立てていきます。
- 予想する段階では、「何を結果とするのか。」をはっきりとさせて、観察・実験の目的と結果の見通しを明瞭にします。
- 結果から言えることを表現する段階では、自身の分かり具合を高めることと共に他者にどう伝えるかという視点を持たせ、表現することへの意義を実感することができるようにします。これが「伝えるべきこと」と「伝えたいこと」の一致につながると考えます。

【ご家庭では】

- 理科は、科学的な知識を身につけるばかりではなく、問題を解決していく力を伸ばす大切な教科です。様々な問題や課題に直面したときに、自分なりの予想や仮説を立て、計画的に挑んでいこうとするお子さんの姿を褒め・励ましてください。
- 何か問われたときは単語での返答ではなく、「何が、どうした。」のように文の形で答えるようにご指導をお願いします。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1)結果 《生活習慣等について》 ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を含む。

調査項目 (抜粋)	本校 %	全国平均 %
自分には、よいところがあると思いますか。	73.8	84.0
将来の夢や目標を持っていますか。	86.4	85.1
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	95.5	95.2
朝食を毎日食べていますか。	93.2	94.5
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	82.9	77.0
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	90.9	88.8
家で、学校の宿題をしていますか。	94.4	97.1
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。	64.7	62.6
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。	73.9	80.5
今住んでいる地域の行事に参加していますか。	72.8	62.7
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。	61.4	63.8
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	62.5	49.9

自己肯定感は全国平均と比べてやや低いものの、将来の夢や目標を持ち、人の役に立つ人間になりたいなど将来に対して前向きな姿勢を持っていることが分かる。起床・就寝・朝食については全国平均と同等あるいは上回り、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムも概ねできているようである。

家で、学校の宿題をする児童は94%を超えており、家庭での学習習慣が定着していることが分かる。しかし、予習・復習への取り組みが低いことも明らかとなった。宿題はきちんとしているが、予習・復習については個々の意識に差があり、これが学習時間の差に直結していると思われる。家庭学習の質・量をともに上げていく必要がある。

「住んでいる地域の行事に参加しているか」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があるか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか」については、62～72%であった。全国平均より高いものの、自分が住んでいる地域に関心を持っている児童が多くはないことを示している。自分の生活は、地域の歴史や人に支えられて営まれていることを授業で伝えていく必要がある。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校で学ぶ十の力「話す力、きく力、書く力、読む力、見る力、感じる力、覚える力、考える力、使いこなす力、人を好きになり人から好かれる力」を全校で共通理解しています。毎朝、十の力を意識することで学ぶ意欲を高めていきます。
- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学习（自学）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示する等して定着しつつあります。これから中学年にも少しずつ広げていきたいと考えています。
- 総合的な学習の時間において、本庄町の歴史、文化、暮らしについて学習する「本庄学」に取り組んでいます。全学年・全学級で取り組み地域を愛し、誇りをもてるようにしていきます。

【ご家庭では】

- 子供に自信をもたせる様々な取り組みが行われています。子供が頑張っている様子を写真に撮って居間に飾ってほめる「ほめ写プロジェクト」、1日10回子供にタッチしたり、10秒ハグしたりする「10タッチ10ハグ運動」などなど。各ご家庭でできそうなことに取り組んでみてください。
- 普段の外出するときなどに地域の歴史や文化についてちょっとだけ話題にしてみてください。子供の地域への関心がぐんと高まります。本庄の町には素晴らしい歴史と文化がたくさんあります。